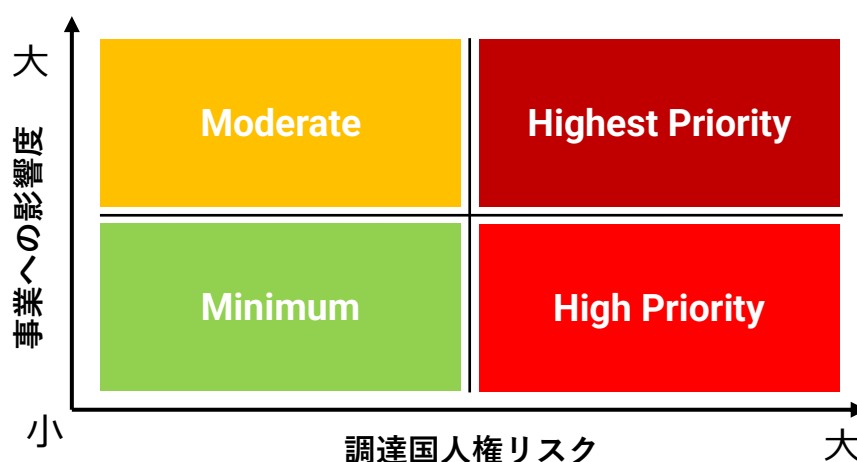


キリングroupサプライチェーン上のリスク分析及び、2026年～2028年活動計画について

キリングroupでは、2021年4月に「キリングgroup持続可能な調達方針」および「キリングgroup持続可能なサプライヤー規範」の制定を受け、サプライチェーン上の人権デューデリジェンスを推進するために、キリングgroupで調達している農産物および農産物加工品のリスク評価を継続して実施しています。主要原料であるモルト（大麦）、ホップ、紅茶葉、緑茶葉、コーヒー豆、ぶどう、砂糖、とうもろこし、大豆、グレープフルーツ果汁、レモン果汁を対象に、評価手法として、外部の専門機関であるBSR（Business for Social Responsibility™）の助言も受けながら、Sedexの評価ツールを用いて、原料調達国ごとの人権リスクと事業への影響度という2軸で人権リスクの高い農産物および農産物加工品を特定及び、優先順位付けを行いました。



※対象の人権リスク：強制労働、結社の自由、健康安全性、児童労働、適切な賃金、労働時間、差別、ジェンダー、正規雇用、労働基準

2025年の分析では、キリングgroupのサプライチェーン上において人権リスクにおける「Highest Priority」と分類された農作物と調達国は、紅茶葉（スリランカ、インド、ケニア、インドネシア、マラウイ）でした。今後はこれらの品目から実態把握、人権リスクの特定を行っていきます。

<今後の人権デューデリジェンスに関する計画>

2026年 紅茶葉（スリランカ、インド）のサプライチェーンにおける人権影響評価の実施

2027年 その他の「High Priority」調達品のサプライチェーンにおける人権影響評価の実施

2026年実施の人権影響評価の結果公開と発見された課題に対する改善活動

2028年 その他の「High Priority」調達品のサプライチェーンにおける人権影響評価の実施

2027年実施の人権影響評価の結果公開と発見された課題に対する改善活動